

愛知スキー協通信

No.280

発行：新日本スポーツ連盟 愛知スキー協会

2018年 6月 1日

〒460-0011 名古屋市中区大須 1-23-13 TEL052-201-4801 (Fax 共)

e-mail : aichiskikyokai@yahoo.co.jp (月1回発行)

<http://aichiskykyou.yukigesho.com/>



編集クラブ：望幻hadashi

スキーシーズの総括をして、来期準備へ 「自分の居場所ありますか？」



文責 愛知スキー協 理事長・技術委員長兼任 寺田 康男
(みんなで、一つ上の指導員を目指そうプロジェクトメンバー)

あなたの居場所があるのなら、そこは発展させるに値する場ですか？でなければ違う所をみつけましょう。継続は力です。変化つけられずに、カモ入れないで、繰り返すだけでは、つまらなくなります。苦労したものがなかったら、総括しても意味がありません。あなたの仲間が、今ある環境が、離れて、なくなって、あなたが泣くのです。

今築かない(訂正 今、気がつかないと)と・・・だから、クラブで根気良く出来た(がんばれた)出来事、(訂正 今期、新たにできかけた出来事も含む)これから育つだろう事柄を出し合い、来期につながるものを確認し合う、総括をしましょう!!! できもしないことや、過去がどうだったなんて話しは極力しないことを前提に始めましょう。現状を認識して伸びそうな芽を見つけ、どう伸ばすかです。連続駄洒落で(よみにイキニク Bクイックで) すみません。

今月は、2回の理事会が予定されています。総会案をつくるためです。

「参加して意義のある総会」の為に、理事メンバーは、総力をかけて総会を準備します。代議員の方は総会に爽快に参加してください。総会は自分の居場所を確認しあう場でもあります。クラブのあり方に迷いのある人は、進んで参加すべきです。スキー協は、高齢化、親父化しています。それは、それでたのしもうではありませんか!!

スキー協の1年は総会から始まり、総会で終わります。代議員の数だけ参加すればよいのではなく、総会に参加して、どう行動すれば良いのか解った人が運営に協力してくれるようになるのだと位置付けてください!



東海ブロック協議会拡大役員会報告

2018年5月19日(土) 13:00~17:00

主催 全国勤労者スキー協議会・東海ブロック協議会

全参加者 17名 岐阜4=佐藤、多田、永野、今尾 愛知8=寺田ヤ、東マ、永田、米村、土屋、東ナ、寺田コ、三宅コ 静岡4=加藤、長島、丹羽、中村、 三重1= 武市

目的

今後、東海ブロック総会と銘打ち定例化したい。県で総会が開けない状態の所がある以上、ブロックで対応していきたい。今回は、昨年と同じ名目で招集しました。

参加して、^{たのしさ}愉しさが残る物にしたい。負担も少なければ、責任も少なく、でも人は集まる、言いたいことが、^{いえる}云える総会があってもいいじゃないのでしょうか。

日程と内容

第1部 13:00~14:00 「新教程の面白さについて」

技術論=「自分自身がみえないことが他人につたわるわけがない」ブロック長発言

- ・全国技術部会報告および室内実技（足裏切替えについて）
- ・シーズン中のみんなの認識違いについて（初滑りアンケート集計より）
谷回りの連続運動とその為のプルーク形態であり、運動自体は、平行操作と同じだから
パラレルとすること。
- ・ブロックの技術強化について
切替の運動の認識の補充を床上で体感してみた。（足裏切替えについて）

第2部 14:20~15:20 「面白いブロック行事を目指して、どう伝える」

組織論=「そしきは、統制することでない。自由の拡大と個性の宝庫が命」ブロック長発言

- ・スポーツの楽しめる交流学習会について
- ・初滑りとスノーフェスティバル及びその他 フェス引継事項は2P 日程表は3P,4P
- ・東海ブロック技術部体制について
全国技術部会東海ブロック代表技術部員=寺田ヤ
愛知県部員=寺田ヤ、東マ、土屋カ、米村 静岡部員=加藤、丹羽
岐阜県部員=佐藤（ブロック技術部長）、多田、永野、今尾 三重部員=武市、かどや
東海ブロック技術委員は、中級指導員以上は、全員。及び希望者は誰でもなれる。
上記員に対しては、レポートの提出を求める。

第3部 15:40~17:00 「組織存続のためのおもいはなし」

運動論=「基本は話し合い。一つの話しを短く、何度も練り合う。技術論と組織論の統合」
ブロック長発言

- ・各県の現状と魅力作りと未来について（新たな組織形態の模索）
- ・どうしたら、みんなでスキーが楽しく、上手く、長く、安全に出来るか

第4部 18:00~22:00 「交流会」

- ・「みんなの技術の上達」について徹底討論



全国スキー協主催 乗鞍岳大滑降 (2018.5.11~13)

表記の行事が行われ、愛知スキー協からはぶなの木メンバー4人、全国から22人、総勢26人のメンバーが参集した。宿は美鈴荘で各人三々五々集った。

5/12朝、6:30の朝食後、A、B、Cの班分け。A班健脚組、C班ゆっくり組、B班その中間。7:45に宿のマイクロバスでシャトルバス乗り場へ、8:30に位ヶ原山荘行きバス。位ヶ原山荘に到着後、準備を整えて、9:50くらいに登高を開始した。天候はやや薄曇り、微風でますますのコンディションであった。最初はそろってスタートしたが、脚力に優れるA班は徐々に先を行き、それにB班が続き、C班はゆっくりという具合であった。B班は2グループに分かれ、一部はA班の後を追ったが、残りのグループは乗鞍頂上とは正反対の方向へ行ってしまうというハプニングもあった。天候はよく、常に乗鞍岳の頂上が見えている状態。頂上下の大雪面に出ると風も強くなり、ウィンドブレーカーなしでは寒い位であった。

位ヶ原山荘発の13:24の下山バスに乗る予定であった。A班はかなりペースを上げて、頂上制覇(写真)、B班の一部は12:15、頂上へ後、30分位の処で、無念の登高停止、滑降にはいった。B班の残りは一体どこへ行ったんでしょうか。C班はもう少し下で登高を停止した模様。

滑降は、最初は斜度も強く、ややクラストした雪で、加重すると板が雪に沈みこみ、回転もかなり大変であった。少し、滑って、高度が下がってくるとクラストもなくなり、快適な滑降を楽しめた。全員が途中のトイレ(?)横のややフラットな部分に12:45集合、全員怪我無く、無事に降りてきたようである。下山バスの時間が迫っており、集合写真を撮り、休憩もそこそこにさらに、滑降、めいめい滑りを楽しんだ。スケジュールがタイトだった。天候の関係もあったのだろうが、15時半のバスで下山という選択枝もあったのではなかろうか。(登高2時間半、滑降30分)



下山バスの前にぶなの木メンバーで記念写真(写真)。13:24位ヶ原山荘発のバスで下山、宿には14:30位に到着。その後、夕食までのながーい時間、お酒をお友達にしながら、スキー談義に花をさかせ、18:00からの夕食、さらにその後の2次会で全国のスキーヤーが交流の輪を広げた。

翌5/13、ぶなの木のメンバーは高天ヶ原へ登頂の予定であったが、折悪しく接近してきた低気圧のため、朝から雨で、登頂を断念した。この時期なかなか2日続けての好天は難しいものだ。乗鞍岳登頂の余韻を抱いて、帰途についた。

(記:ぶなの木スキークラブ 堀木 幹夫)

東海ブロックゴールデンウィーク合宿

イエティニュースより一部抜粋および編集 寺田康男

本来はイエティ合宿ですが、人数を増やすため東海ブロックと名を打って 14 名の参加がありました。しかし、今回は三宅幸一さん以外の参加がなく残念でした。参加者の募り方の工夫が必要かなと思います。

とはいえ、今年は局部的な豪雪で結構雪不足でした。そのことを知らない方も多かったと思います。そのうえ猛暑があったり、猛烈な雨がったり、冷えがあったりで天候に右往左往させられました。野沢温泉スキー場から適宜情報を頂き、ポールどころかフリーも危ない、一転してポールが何とかできる情勢、残念ですができません。そして、最後は、2 時間単位で小毛無グレンデで SL 限定で 3 チームずつ行えるということで 10 時 30 分～12 時 30 分の 2 時間いつもの場所で行うことができました。ポールが張れないと考え日程を 5 日までに変更して行いました。とにかくポールを張れるようにしてくれた野沢温泉の営業努力に感謝です。やはり 6 日まで頑張れはと思いました。HEAD から試乗板をたくさん提供していただき試乗できました。高さんに合わせて感謝です。帰りは、渋滞でした。



アルペン競技用語解説③

ポールというと一般には、ストックをいいます。競技ではスラロームポールつまり第 2 戦に使っているポールのことを言います。雪上部分は 1820mm と決まっています。つまり赤か青の部分です。下の雪を掴む部分、雪の中にあって、抜けないようにする部分と可倒する部分を含めると 217CM 前後です。雪上部分の太さは 30mm、ジュニア用は 27mm と決まっています。当たった時の衝撃や重さが変わってきます。

当たると痛いので昔は、段ポールを腕に巻いたり、サッカーの脛当てを代用したりしたそうですが、今ではプロテクターを着けています。

特にスラロームではよく当たるのでプロテクターをしっかりと着けています。ストックにはパンチガード、ヘルメットにはチンガーを着けます。脛に着けるプロテクターはレガース。腕にアームブロック、これは GS に着ける場合が多いです。また、ワンピース（レースで着ている空気抵抗の少ない服）の下に脊柱や上腕部を守るプロテクターを着けています。最近、日大で話題のアメフトのプロテクターと似ているものです。

スポーツは平和とともに

私たち、愛知スキー協では「安倍 9 条改憲 NO！全国市民アクション」の呼びかけに賛同し、「憲法を生かす全国統一署名（3,000 万署名）」に取り組んできました。各クラブで行われた行事などでも皆さんにご協力いただき、多くの署名をいただきました。スポーツ団体である愛知スキー協がなぜ、このような署名に取り組んだのでしょうか。それは私たちが所属する新日本スポーツ連盟の「スポーツは平和とともに」のローガンに基づくものとしての取り組みだからです。

スポーツにとって、戦争のない平和な世界こそが活動と交流の最大の保障です。かつての侵略戦争の時代にはスポーツは敵性文化として敵視され、その一方で「戦技」として教練や戦争の道具に変質させられました。また、多くの前途有為のスポーツマンたちが活動を停止させられ、尊い命を落としました。暴力で平和を破壊した戦争はスポーツの自由を奪い、その進歩・発展を止めてしまいました。

安倍首相がもくろんでいる日本国憲法の 9 条改憲（自衛隊明記含む）は、自衛隊の海外派遣を合憲化し、集団的自衛権の行使を容易にして、日本を戦争をしない国から戦争ができる国へと変貌させてしまうのです。そんな安倍改憲を私たちは許すことはできません。

この「3,000 万署名」は 5 月 3 日の時点で 1,350 万筆を超えたとの報告がありました。取り組みは 6 月上旬ごろに一旦、終了し集約しますが、安倍首相はいまだに改憲をあきらめてはいません。署名活動は 6 月以降も続けて行うことが市民アクションより発表されています。今後ご協力をお願いします。

（愛知スキー協会 副理事長 永田政広）

※全国スキー協の栗岩恵一会長も呼びかけ人となっている「スポーツ 9 条の会」のアピール「戦争をしない国」、憲法 9 条を持つスポーツマンとして」（2004.12.24）より抜粋しました